



赤 産 建 号  
平成19年 4月27日

国土交通省道路局長 様

赤井川村長 赤 松



中期的な計画作成にあたっての意見書について

平成19年4月2日付け国道企第114号により依頼がありました標記について別添  
のとおり提出致します。

(産業建設課土木係)

## 道路整備に関する中期的な計画作成に対する意見書【赤井川村】

### ◆重点化を進める上で特に優先度の高い政策◆

#### <国道・道道関係>

本村のような中山間地域は、周辺自治体や道都札幌市とは医療・福祉・教育はもとより流通・経済など、多方面における密接な関わりの中で住民の日常生活が営まれており、その要は安定した道路交通網の維持確保です。

特に主要幹線道路（国道393号・道道余市赤井川線）は急カーブを抱える峠を要しており、冬期間や災害時における陸路の確保は住民の生命にも係わる重要な問題であります。

また、産業基盤である農業や観光業においても、各種振興策を進めるうえで人や物の流をスムーズにする道路網の維持確保が重要であり、人口が集中する都市交通整備の必要性とは違った課題として、地方幹線道路の整備課題が存在しています。

このため、次の事項を優先度の高い政策と考えます。

- ①山間地国道・道道の急カーブ・急勾配など交通安全上支障となる路線の早期解消。
- ②山間地国道・道道における環境や景観確保するための道路付属物の充実。
- ③都市に向かう幹線道路渋滞緩和のための循環道の充実。
- ④山間地国道における携帯通信不能エリアにおける緊急通報システム等の整備。
- ⑤山間地国道におけるドクターヘリポートの確保。
- ⑥豪雪山間地国道における冬期24時間交通の安全確保。
- ⑦トンネル内における電波不良（携帯・ラジオ等）の解消。

#### <地方道関係>

村道は総延長が139,229mで改良舗装率は59.3%となっており、多くは農道としての機能を求められるなど、住民生活や産業経済の発展に欠かせないものとなっています。

しかし、昭和40年代後半から長年に渡り、段階的に改良舗装を進めてきたことから、比較的交通量が多い路線においても車輻の大型化や経年変化により改良の必要性が生じています。

このため高齢化人口の増加に対応したユニバーサルデザインを考慮しつつ、老朽化した道路・歩道・橋梁の改修整備が急がれていますが、財政的にも大胆な改修計画の推進は難しい状況を抱えています。

以上の点から、次の事項を優先度の高い政策と考えます。

- ①自治体裁量で行う整備コスト軽減を図る道路整備事業への支援。（起債採択基準の緩和等）
- ②ユニバーサルデザイン推進事業枠の拡大。
- ③道路特定財源の地方道配分枠を明確化し、地域格差が生じないよう地方道整備予算の安定確保。
- ④冬期安全交通確保の為の支援の拡充。
- ⑤小規模災害復旧に対する支援事業の拡充。

◆効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと◆

- ①計画段階で十分な他計画との調整や将来を想定した構造や工法検討を行い、計画変更等が発生しないように設計・施工管理の適正化を図る。(権限の違いより構造物を埋設する場合、同じ場所を何度も施工しているように見える。)
- ②予算の重点配分と適正なスケジュール管理により事業の長期化を防ぐ。
- ③既存道路の高規格化などにより、市街地周辺以外の速度規制を緩和し、高速道路建設の必要路線を再検討する。
- ④高速道路料金の引き下げ（E T C装着による割引時間とエリアの拡大等）により、利用効率を高め、都市周辺一般道の渋滞緩和や交通の安全を確保する。
- ⑤E T C車載装置普及に係る支援事業（無料化）の推進強化を図る。（P R不足）

◆その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する事項◆（無駄と思われる事項含む）

- ①北海道の場合、冬季雇用対策として冬季工事の施工が計画的に進められている部分もあると思われるが、緊急性を伴わない工事については、適期施工によりコスト削減を図ることも必要と思われる。
- ②自然災害発生時の即応体制の充実強化。
- ③道路情報（工事・事故・渋滞等）車載提供システムの充実強化。